

審査の結果の要旨

氏名 金 智慧

近年、性的マイノリティへの社会的関心が高まり支援の動きも広がっているが、特に「バイセクシュアル」と自認する女性に関しては、「ゲイ」や「レスビアン」に比べて研究も少なく、その体験をていねいに検討しそのニーズを理解していくことが求められる。本研究は、バイセクシュアル女性を囲む社会環境の特徴を明らかにした上で、そうした環境を生きる彼女たちのライフストーリーを、当事者間のインタビューと語り合いから質的に探索したものである。

本論文は全5部9章から構成される。第1部「問題と目的」では、第1章「本研究の問題意識」において性的マイノリティに関する先行研究を概観した上で、女性バイセクシュアルに焦点を絞ることの意義がまとめられ、第2章と第3章では研究全体の目的と方法論が呈示された。第2部「社会における女性バイセクシュアル」では、第4章・研究1において異性愛者約300名・同性愛者約120名に対する質問紙調査を行い、女性バイセクシュアルに対する人々の態度を検討した。その結果、女性バイセクシュアルは特に異性愛男性によって否定的なイメージを持たれていること、同性愛者からの否定的態度は相対的に低いものの、他の性的マイノリティとは異質と感じられている傾向も認められた。

第3部「女性バイセクシュアルの自分に気づく」では、まず第5章・研究2として、2名のバイセクシュアル女性のライフストーリーに関する事例研究が行われた。そこでは様々な共通点が認められつつ、自らを「バイセクシュアル」と自覚するまでの過程に異なる段階がある可能性が示唆された。それを受けた第6章・研究3では、8名のバイセクシュアル女性にインタビューを行い、バイセクシュアルであるという自覚・自認までに複数回の自覚・自認の転換があるという点で同性愛者と異なること、また、そのプロセスには少なくとも3つのパターンがあることなどが示された。

第4部「女性バイセクシュアルを生きる」では、自覚・自認以後の体験に注目している。第7章・研究4では4名のバイセクシュアル女性と研究者との「語り合い」の結果をもとに、彼らのもつ人間関係の特徴を明らかにした。結果としては、一般社会と性的マイノリティのコミュニティの両方において受け入れてもらえる場所を見つけることが彼らにとって重要なテーマとなっており、そんななかで周囲へのカミングアウトをどう行うかが課題となっていた。第8章・研究5では、女性バイセクシュアルの「私たち」が語り合うことの意味が探索された。そして3人の当事者からのデータを通して、語り合いがバイセクシュアルである自分に向き合って葛藤や悩みを見直す契機になりうることを示された。

第5部は全体の「総括」である第9章からなり、女性バイセクシュアルにおける二重のマイノリティ・ストレスの体験や、そこで体験される生き難さを緩める心理支援のために必要な心構えや、ピアサポートの可能性など本研究の学問的・実践的な含意が展開された。

本研究は、これまで光が当たってこなかったバイセクシュアル女性に関して、アイデンティティの構築とそこから生じる生き難さの体験が詳細に記述されたほか、社会からの見方や他の性的マイノリティとの違いなどが量的・質的に明らかにされた点で特に評価することができる。より長期にわたる変化・発達など今後に残る課題もあるが、今回の知見は性的マイノリティに対する心理的・社会的支援に貢献するものであり、博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。